

日本語版好奇心5次元 (The Five-Dimensional Curiosity Scale-Revised: 5DCR) 尺度の妥当性の検証

大阪商業大学 総合経営学部商学科
専任講師
西川 一二

好奇心とは

- 心理学における好奇心研究の発端は、動機づけ研究である。
→好奇心は、内発的動機づけの源とされてきた (Berlyne, 1960)。

≡好奇心とは、

報酬に囚われない『人や動物が、何かを見たいや情報を知りたい』

といった根源である。

(≡動因)

人の好奇心は、好奇心(seeking system≡好奇心の動因)を基盤に、知覚や認知などの情報、報酬、社会的価値や環境などの様々な要素と接合し、多種多様に展開される。好奇心に基づく探索には、いくつかの種類がある。

The fundamental core emotions (Davis & Panksepp, 2018)

新奇性
刺激

●探索 (Seeking)



●遊び(Play)



●恐怖 (Fear)



●怒り (Rage)



●ケア
(Care)



●パニック
(Panic)

●情欲(Lust)

この理論は、全ての哺乳類の脳の神経回路における原始的な感情システムから、左記の感情を位置づけ、これらの感情傾向（気質）が人間の人格形成の基礎になる。

ポジティブ感情には好奇心に値する「探索」がある。

好奇心は、人と動物（哺乳類）に共通した特性である。

雨宮 (2016)を基に作成

The fundamental core emotions (Davis & Panksepp, 2018)

・ Seeking system=Curiosityの性質

1. 好奇心は、あらゆる探索活動を動機づける最も基本的な感情である。

(一方、遊びはあらゆるスキルを模擬的に経験するための最も総合的な感情である。)

2. 好奇心は餌から、恋人、職業、科学理論まで、すべての対象の探索の基本にある。

(一方、遊びのなかには、恐怖から嫌悪、愛着、好奇心まですべての感情が取り入れられる。)

3. 好奇心は危険な状態、空腹の状態でも生ずる。

(一方、遊びは安全性の認識と適切な栄養状態でないと生じない。)

好奇心の研究：尺度研究一覧

year	scales	subscales	notes
2004	Curiosity As a Feeling of Deprivation (Litman & Jimerson)	Competence Problem-solving Intolerance	認知的な不調和や情報の不一致によって動機づけられる好奇心
2010	Interest-Type and Deprivation-Type Epistemic Curiosity Questionnaire (Litman)	Interest-type Deprivation-type	I-type = 期待や予期に関する好奇心 D-type = 情報の不一致によるイライラからの探索
2003	Epistemic Curiosity (Litman & Spielberger)	Diversive curiosity Specific curiosity	知的活動における探索行動の2タイプ
2004	Perceptual Curiosity (Collins et al)	Diversive curiosity Specific curiosity	音や光など感覚情報における探索行動の2タイプ
2005	Sensory Curiosity (Litman et al)		刺激希求に関連した好奇心
2006	Social Curiosity Scale (Renner)	General Social	社会関係における好奇心
2007	Interpersonal Curiosity (Litman & Pezzo)	Curiosity about emotion Spying and prying Snooping	人の情報に関する好奇心
2012	Work-related Curiosity (Mussel et al)		仕事にかんする好奇心
2017	Intrapersonal Curiosity (Litman et al)	Understanding Emotions and Motives Reflecting on Past Exploring Purpose and Identity	内省活動に関する好奇心
2021	Morbid Curiosity (Scrivner)	Minds Paranormal Body Violence	異常な好奇心
2009	The Curiosity and Exploration Inventory-II (Kasdan et al)	Stretching Embracing	日常生活における中長期的な好奇心 経験
2020	The Five-Dimensional Curiosity	Joyous Exploration Deprivation Sensitivity Stress Tolerance Social Curiosity (Overt) Social Curiosity (Covert) Thrill Seeking	従来の様々な好奇心尺度を、5次元に集約した尺度

好奇心の種類に関する研究の概要一覧

<好奇心の探索のメカニズムや方略>

- 刺激情報と覚醒度
→Diversive-Specific (拡散—特殊)
- 刺激情報と認知
→Information gap (情報のズレ)
- 気分(feeling)の要素
→Deprivation type - Interest type (焦燥型—興味型)
- 探索行動の要素
→Breadth-Depth (広さ—深さ)

好奇心の探索のメカニズムや方略が扱われている

好奇心のタイプ

『どのようにして』知りたいのか？に焦点をあてている。

<好奇心の探索の方向性>

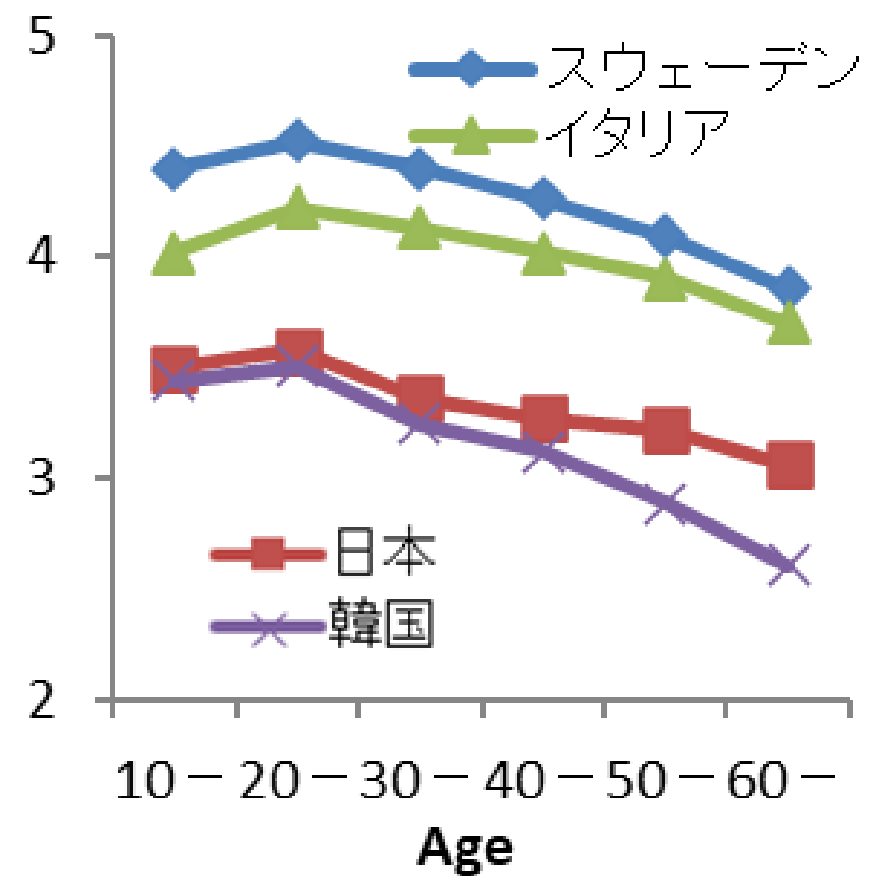
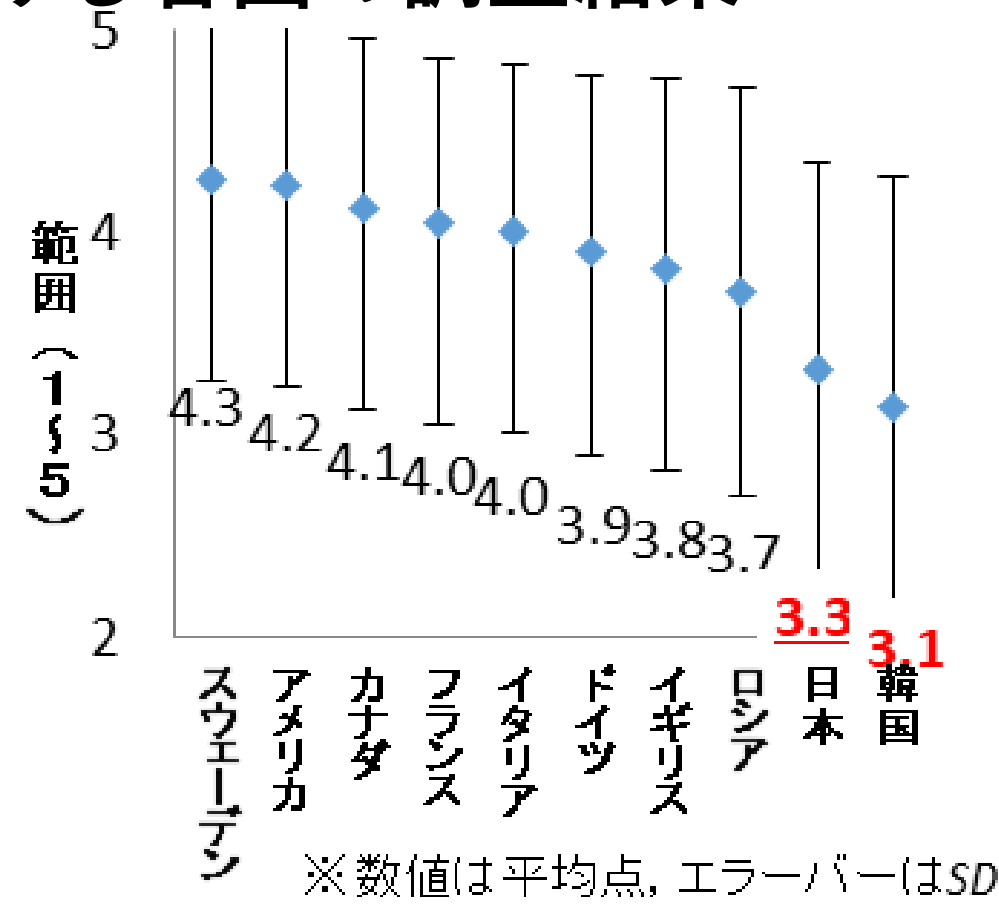
- 好奇心探索の方向≡領域
知的領域・知覚領域・対人社会領域・内省領域・怖いもの・仕事場面・学業場面
→知的好奇心・知覚的好奇心・对人的好奇心

好奇心の探索の方向性が扱われている

好奇心の領域

『何』を知りたいのか？に焦点。

OECDの国際成人力調査(PISA, 2013)： 好奇心に関する項目（私は新しいことを学ぶのが好きだ） における各国の調査結果

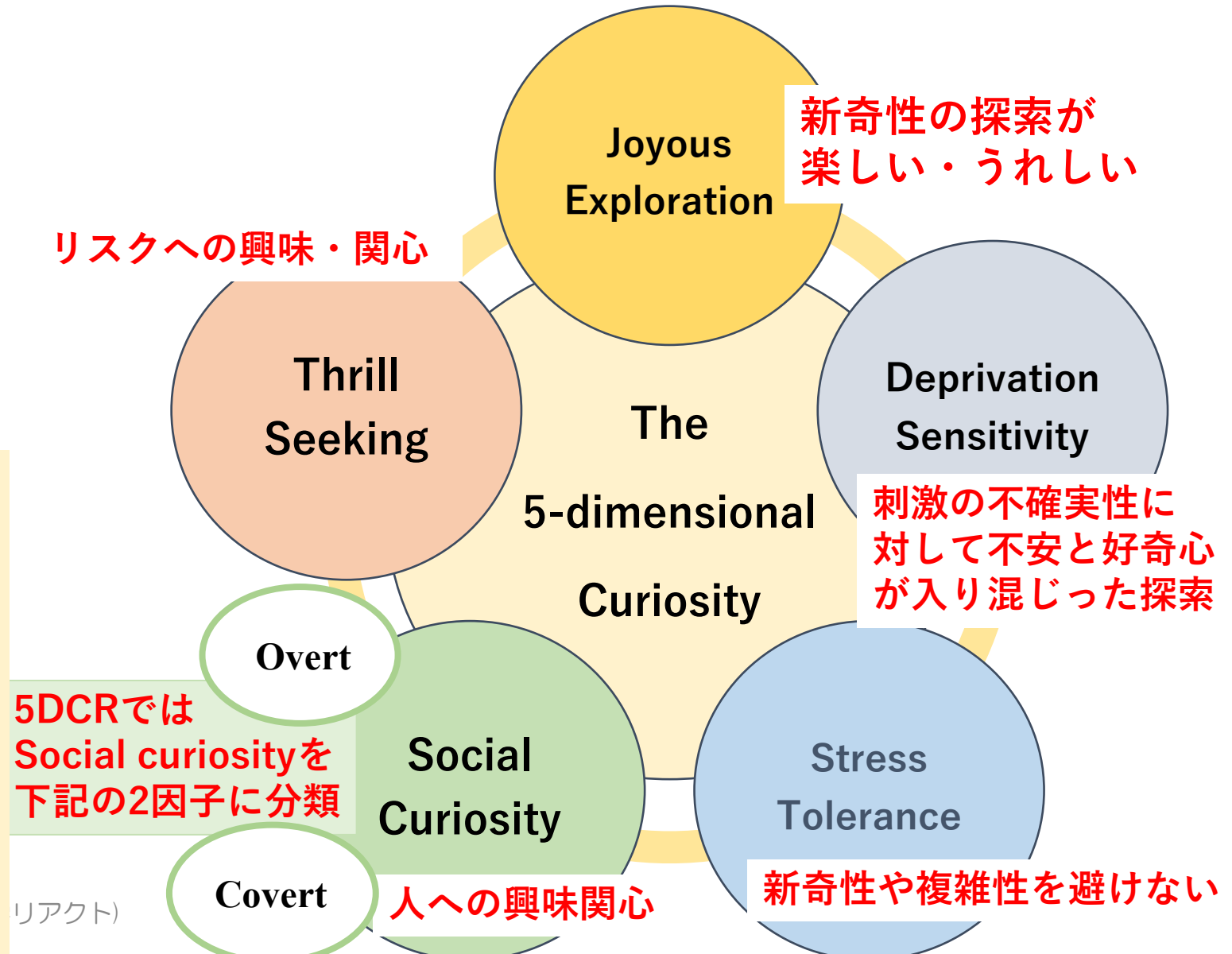


日本の好奇心得点は、欧米諸国と比べて低く、
好奇心と年齢との関係は、どの国も高齢になるほど低くなる。

好奇心の5DC及び5DCR尺度 (Kashdan et al., 2018 2020)

・これまでの開発されてきた好奇心に関連する尺度の項目を用いて、因子分析から主要な好奇心因子を捉えようとした。

・ 5DCRの好奇心因子は、好奇心の探索領域より探索メカニズムで捉えられている。好奇心の探索メカニズムの種類のことを**好奇心タイプ**と呼ぶ。



好奇心の5DC及び5DCR尺度 (Kashdan et al., 2018 2020)

探究の喜び (Joyous Exploration: JE)

4. 新しい知識を学ぶことは魅力的だと思う
3. なじみのない物事について、知るのを楽しみにしている
2. 物事をじっくりと考えられる機会を探している
1. 困難な状況でも、それを成長と学びの機会ととらえている

欠乏の感受性 (Deprivation Sensitivity: DS)

7. 問題の答えが分からないとフラストレーションがたまるので、答えをもとめて、いっそう頑張る
6. 答えがわからないと落ち着かないので、一つの問題に何時間も費やすことがある
8. 解かなければならないと感じた問題には、しつこく取り組む
5. 難しい問題の答えを考え続けて、夜、寝付けないことがある

ストレス耐性 (Stress Tolerance: ST)

10. 不確実な状況により生じるストレスには立ち向かえない
9. 新しい経験をしようとしても、ちょっとでも疑わしいところがあれば、避けてしまう
11. 自分の能力に確信がないと、知らない場所を探索するのは難しい
12. 不意をつかれるかもしれないと思うと、集中できなくなる

秘密:社会的好奇心 (Covert Social Curiosity: CSC)

22. 他の人々のそばにいと、その人たちの会話が聞きたくなる
23. 人が口論をしていると、いったい何が起きているのか知りたくなる
21. 人が会話していると、何についての話なのか知りたくなる
24. 身近な人の私生活を探りたくなる

公然:社会的好奇心 (Overt Social Curiosity: OSC)

18. 興奮している人と話しをするとき、なぜその人が興奮しているのか、そのわけを知りたくなる
19. 人と話をするとき、何か、その人の興味深い点を見つけようとする
17. 周りの人が何に興味を持っているのかを知りたくて、色々質問する
20. 人々の行動のわけを探り出したくなる

スリル探求 (Thrill Seeking; TS)

14. 暇な時間があったら、少しゾクッとするような経験をしてみたい
13. 身の危険をかけた行為はエキサイティングだ
15. あらかじめ、お膳立てされた冒険よりも、その場で体験してゆく危険な冒険の方が、はるかに魅力的だ
16. 予測不能で刺激的な友人の方が好きだ

	JE	CSC	OSC	DS	TS	ST	<i>n</i>	平均	<i>SD</i>
探究の喜び(Joyous Exploration: JE)									
4.新しい知識を学ぶことは魅力的だと思う	.91	.06	.01	-.08	-.03	.03	.79	5.4	1.3
3.なじみのない物事について、知るのを楽しみにしている	.85	.02	-.01	-.03	.04	-.09	.71	5.0	1.3
2.物事をじっくりと考えられる機会を探している	.60	-.07	.01	.13	-.03	.18	.49	5.0	1.3
1.困難な状況でも、それを成長と学びの機会ととらえている	.57	-.01	.00	.07	.06	-.11	.39	4.7	1.4
秘密:社会的好奇心(Covert Social Curiosity: CSC)									
22.他の人々のそばにいと、その人たちの会話が聞きたくなる	.04	.94	-.10	.02	-.01	-.03	.78	4.4	1.6
23.人が口論をしていると、いったい何が起きているのか知りたくなる	.07	.76	-.02	-.08	.04	.01	.58	4.7	1.6
21.人が会話していると、何についての話なのか知りたくなる	-.03	.75	.12	.10	-.08	.01	.69	4.7	1.5
24.身近な人の私生活を探りたくなる	-.15	.41	.23	-.07	.12	.05	.37	3.9	1.7
公然:社会的好奇心(Overt Social Curiosity: OSC)									
18.興奮している人と話しをするとき、なぜその人が興奮しているのか、そのわけを知りたくなる	-.02	-.03	.84	.00	-.04	-.01	.64	4.4	1.6
19.人と話をするとき、何か、その人の興味深い点を見つけようとする	.02	-.02	.81	.08	-.01	-.01	.70	4.4	1.5
17.周りの人が何に興味を持っているのかを知りたくて、色々質問する	.05	.00	.77	-.10	.12	-.02	.64	4.3	1.5
20.人々の行動のわけを探り出したい	.00	.15	.66	.02	-.07	-.01	.54	4.5	1.5
欠乏の感受性 (Deprivation Sensitivity: DS)									
7.問題の答えが分からないとフラストレーションがたまるので、答えをもとめて、いっそう頑張る	-.03	-.03	-.04	.94	.00	-.11	.79	4.0	1.4
6.答えがわからないと落ち着かないので、一つの問題に何時間も費やすことがある	-.03	.09	-.07	.84	-.01	.04	.69	4.2	1.6
8.解かなければならないと感じた問題には、しつこく取り組む	.12	-.06	.13	.60	-.05	-.02	.49	4.4	1.5
5.難しい問題の答えを考え続けて、夜、寝付けないことがある	.01	-.03	.05	.49	.15	.15	.39	3.9	1.7
スリル探求(Thrill Seeking; TS)									
14.暇な時間があったら、少しゾクッとするような経験をしてみたい	-.11	.01	.01	.00	.86	.02	.72	3.4	1.8
13.身の危険をかけた行為はエキサイティングだ	.02	-.03	-.07	.04	.79	-.09	.60	3.5	1.7
15.あらかじめ、お膳立てされた冒険よりも、その場で体験してゆく危険な冒険の方が、はるかに魅力的だ	.08	.07	-.02	.03	.64	.01	.48	4.2	1.6
16.予測不能で刺激的な友人の方が好きだ	.10	-.03	.10	-.03	.52	.06	.35	4.2	1.6
ストレス耐性 (Stress Tolerance: ST)									
10.不確実な状況により生じるストレスには立ち向かえない	.08	-.01	-.06	.00	.02	.74	.54	4.3	1.4
9.新しい経験をしようとしても、ちょっとでも疑わしいところがあれば、避けてしまう	-.05	.01	-.03	-.04	.00	.73	.52	4.3	1.4
11.自分の能力に確信がないと、知らない場所を探索するのは難しい	-.05	-.05	.01	-.02	-.03	.67	.44	4.4	1.5
12.不意をつかれるかもしれないと思うと、集中できなくなる	-.01	.08	.07	.07	-.02	.50	.33	4.3	1.6

好奇心の5次元尺度の日本語訳と結果 (大学生 $N=337$)

	上三角行列は因子間相関/下三角行列は尺度相関						因子			尺度分析	
	JE	CSC	OSC	DS	TS	ST	α	平均	<i>SD</i>		
探究の喜び(Joyous Exploration: JE)	—	.21	.44	.46	.28	.09	.83	5.03	1.08		
秘密:社会的好奇心(Covert Social Curiosity: CSC)	.17	—	.62	.23	.33	.25	.83	4.43	1.31		
公然:社会的好奇心(Overt Social Curiosity: OSC)	.39	.58	—	.40	.40	.21	.87	4.41	1.29		
欠乏の感受性 (Deprivation Sensitivity: DS)	.43	.22	.37	—	.24	.30	.82	4.10	1.25		
スリル探求(Thrill Seeking; TS)	.28	.31	.35	.25	—	.03	.81	3.85	1.34		
ストレス耐性 (Stress Tolerance: ST)	-.08	-.21	-.17	-.26	-.03	—	.75	4.32	1.12		

固有値の推移で 6 因子が確認された。各因子の項目の因子負荷量は、想定された因子に負荷していた。各因子から構成した尺度の信頼性の α は十分であった ($\alpha > .70$)。

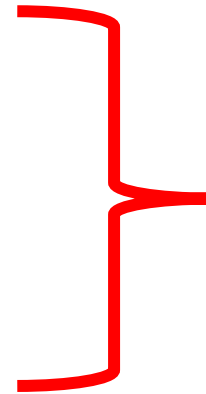
日本語版好奇心5次元尺度の妥当性

6つ（全て）の下位尺度

測定傾向

尺度

新奇性の接近や探索
一般的な好奇心傾向



CEI（好奇心探索）
開放性__BigFive
刺激希求

日本語版好奇心5次元尺度の妥当性

Joyous Exploration : 探究の喜び

測定傾向

思考の広がり
新規性に触れる喜び

Well-beingのVital sign

尺度

< 思考面 >

→ 拡散的好奇心__知的好奇心

< 予測的な効果面 >

→ 心理的well-being

日本語版好奇心5次元尺度の妥当性

Deprivation Sensitivity : 欠乏の感受性

測定傾向

曖昧さを排除・回避
情報の不一致を嫌がり、
完結したものを好む

尺度

< 思考面 >

特殊的好奇心_知的好奇心

< 認知面 >

曖昧さの統制

曖昧さの排除

日本語版好奇心5次元尺度の妥当性

Thrill Seeking : スリル希求

測定傾向

危険やリスクなことを好む。または興味・関心がある



尺度

Thrill and Adventure Seeking_刺激希求

日本語版好奇心5次元尺度の妥当性

Stress Tolerance : ストレス耐性

測定傾向

新規性や複雑なものに対して避けいない。または不安を感じない
※好奇心の性質の拮抗的相互補完関係

尺度

<感情面>

特性不安_STAI

情緒不安定性_BigFive

<予測的な効果面>

心理的well-being

日本語版好奇心5次元尺度の妥当性

Covert Social Curiosity : 秘密裏の社会的好奇心

測定傾向

尺度

人への興味関心
秘密裏のぞき、盗み聞きをベースにした探索



对人的好奇心
秘密_对人的好奇心

日本語版好奇心5次元尺度の妥当性

Overt Social Curiosity : 公然的の社会的好奇心

測定傾向

尺度

人への興味関心
公然的≡インタビュー
対話、質問

→ 对人的好奇心

< 予測的な効果面 >

→ 積極的な他者関係_心理的
well-being

方法

調査時期	2022年6月
調査対象者	全国の国民18歳～80歳 1532名（男性47名、女性52名）
調査方法	民間web調査会社のオンライン調査 妥当性に使用する尺度項目が多いため、 1回目の調査の2週間後に、再度同じ参加者 を対象に2回目の（追跡）調査を実施。
分析方法	関連尺度との相関分析をおこなった。 ※再検査信頼性分析も並行して実施。

京都大学大学院教育学研究科 心理学実験研究倫理審査委員会から承認（CPE-500）を受けている。

各調査で使用した尺度

1回目			2回目(2~3週間後)		
設問	設問	項目数	設問 番号	設問	項目数
	フェイスシート			フェイスシート	
Q1	5DCR	24	Q1	5DCR	24
Q2	知的好奇心	12	Q2	bigfive	29
	対人的好奇心	11	Q3	曖昧さへの耐性	26
Q3	CEI	10		wel-being	24
Q4	刺激希求	15			
Q5	STAI	20		計	103
Q6	人生満足度	5			
	計	97			

分析結果：日本語版好奇心5次元尺度の妥当性 6つ（全て）の下位尺度

	探求の 喜び	欠乏の 感受性	スリル 希求	ストレ ス耐性	社会的 好奇心： 公然	社会的 好奇心： 秘密	平均	標準 偏差	N
再検査信頼性	.69 ***	.62 ***	.68 ***	.64 ***	.64 ***	.66 ***	4.56	1.05	1375
CEI	.45 ***	.26 ***	.50 ***	.24 ***	.42 ***	.26 ***	2.10	.85	1532
開放性__BigFive	.50 ***	.22 ***	.33 ***	.35 ***	.36 ***	.16 ***	3.80	.97	1375
刺激希求	.33 ***	.21 ***	.58 ***	.18 ***	.43 ***	.36 ***	2.28	.78	1532

分析結果：日本語版好奇心5次元尺度の妥当性

Joyous Exploration：探究の喜び

	探求の 喜び	平均	標準 偏差	<i>N</i>
拡散的好奇心__知的好奇心	.62 ***	2.95	.84	1532
人格的成長__心理的wellbeing	.62 ***	3.79	.88	1375
人生における目的__心理的wellbeing	.26 ***	3.59	1.19	1375
自律性__心理的wellbeing	.13 ***	3.97	.93	1375
自己受容__心理的wellbeing	.31 ***	3.68	.98	1375
環境制御力__心理的wellbeing	.37 ***	3.66	.89	1375
積極的な他者関係__心理的wellbeing	.33 ***	3.55	.90	1375

分析結果：日本語版好奇心5次元尺度の妥当性

Deprivation Sensitivity：欠乏の感受性

	欠乏の 感受性	平均	標準 偏差	<i>N</i>
特殊的好奇心__知的好奇心	.61 ***	3.15	.77	1532
曖昧さの統制	.23 ***	4.13	.65	1375
曖昧さの排除	.18 ***	3.64	.86	1375

分析結果：日本語版好奇心5次元尺度の妥当性

Thrill Seeking：スリル希求

	スリル 希求	平均	標準 偏差	<i>N</i>
Thrill_and_Adventure_Seeking __刺激希求	.58 ***	1.95	.92	1532

分析結果：日本語版好奇心5次元尺度の妥当性

Stress Tolerance：ストレス耐性

	ストレ ス耐性	平均	標準 偏差	<i>N</i>
曖昧さへの不安	-.66 ***	3.76	.78	1375
特性不安	-.47 ***	2.36	.59	1532
情緒不安定性__BigFive	-.58 ***	4.24	1.26	1375

分析結果：日本語版好奇心5次元尺度の妥当性

Stress Tolerance：ストレス耐性

	ストレ ス耐性	平均	標準 偏差	<i>N</i>
人格的成長__心理的wellbeing	.27 ***	3.79	.88	1375
人生における目的__心理的wellbeing	.46 ***	3.59	1.19	1375
自律性__心理的wellbeing	.37 ***	3.97	.93	1375
自己受容__心理的wellbeing	.40 ***	3.68	.98	1375
環境制御力__心理的wellbeing	.38 ***	3.66	.89	1375
積極的な他者関係__心理的wellbeing	.32 ***	3.55	.90	1375

分析結果：日本語版好奇心5次元尺度の妥当性

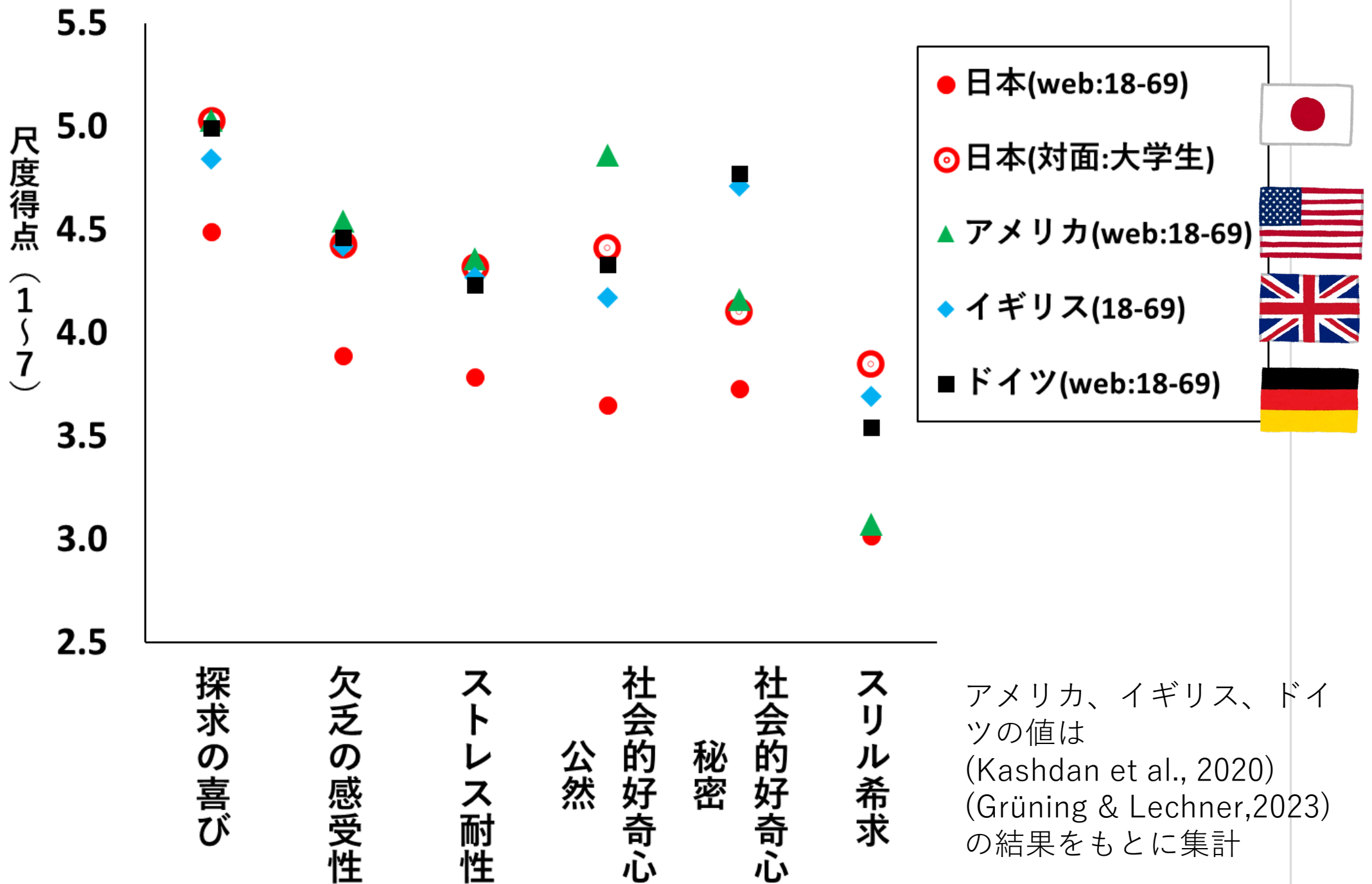
Covert Social Curiosity：秘密裏の社会的好奇心

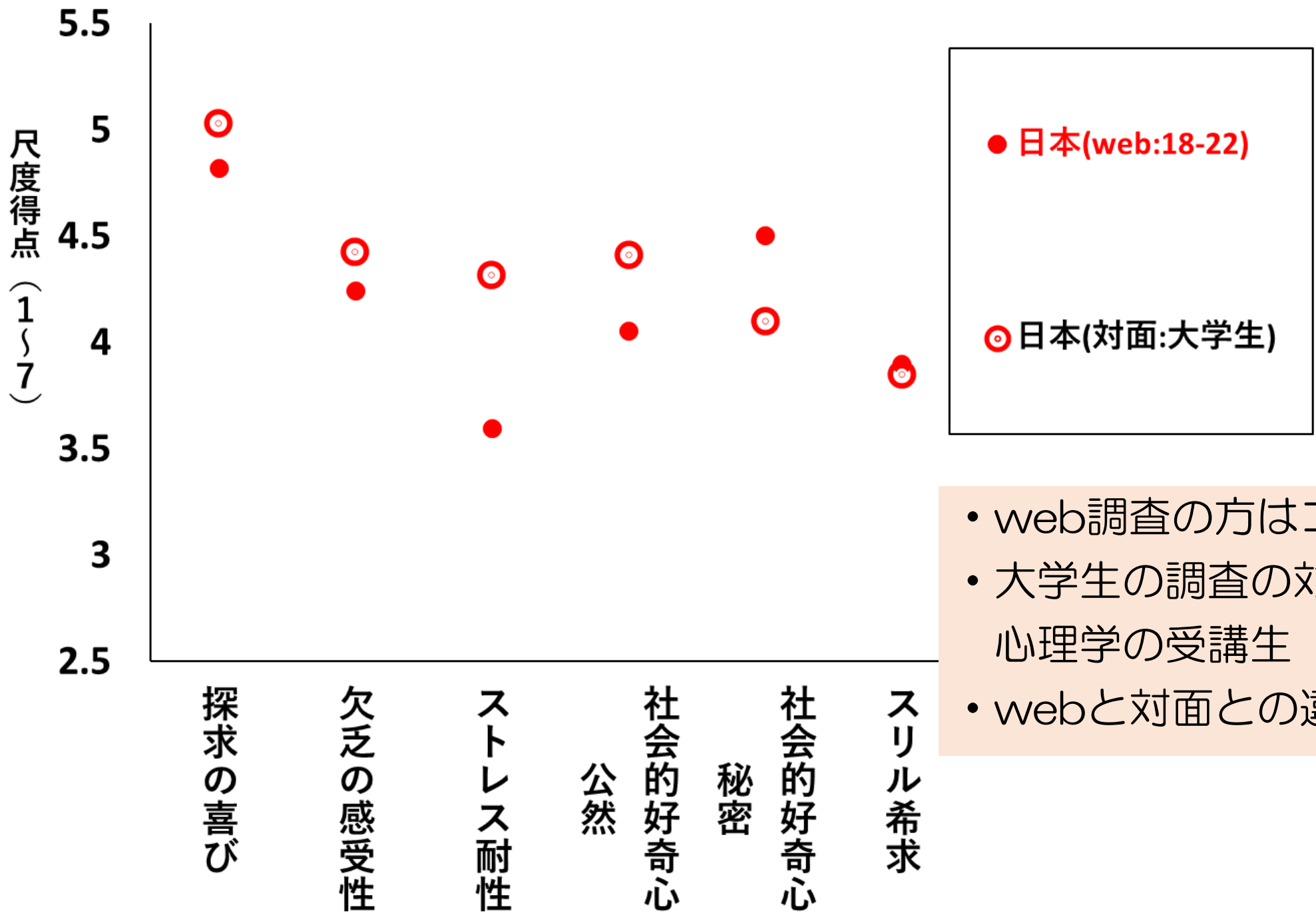
	社会的好奇心： 秘密	平均	標準 偏差	<i>N</i>
对人的好奇心	.66 ***	2.66	.74	1532
秘密__对人的好奇心	.58 ***	2.24	.89	1532

分析結果：日本語版好奇心5次元尺度の妥当性

Overt Social Curiosity：公然的の社会的好奇心

	社会的好奇心： 公然	平均	標準 偏差	<i>N</i>
对人的好奇心	.56 ***	2.66	.74	1532
積極的な他者関係__心理的wellbeing	.31 ***	3.55	.90	1375





- web調査の方はコロナ過
- 大学生の調査の対象者は、心理学の受講生
- webと対面との違いか

知的好奇心尺度

イギリスの大学生
(英語版知的好奇心,
web版)

日本の大学生
(web調査)

Mean

SD

Mean

SD

特殊的好奇心

3.54

0.65

3.59

0.72

拡散的好奇心

3.51

0.67

3.46

0.76

考察：日本語版好奇心5次元尺度の妥当性

- 全ての下位尺度および各下位尺度と関連尺度との相関分析の結果想定どおりの結果がみられたため、全ての下位尺度には一定の基準関連妥当性の高さがある。
- 再検査信頼性（2～3週間）は、.62～.69の範囲であり、低くはない。欧米の研究においてとそこまで（2週間：.69～.71）大きな違いはない。しかし、5DCRの特性or状態かの測定対象は言及されていない。この尺度の測定対象が、好奇心の成長や状態変化あるいは特性なのかをはっきりさせる必要がある。

参考文献

- Berlyne, D. E. (1960). *Conflict, arousal and curiosity*. New York: McGraw-Hill.
- Collins, R. P., Litman, J. A., & Spielberger, C. D. (2004). The measurement of perceptual curiosity. *Personality and Individual Differences, 36*, 1127-1141.
- Davis, K. L., & Panksepp, J. (2018). *The emotional foundations of personality: A neurobiological and evolutionary approach*. WW Norton & Company.
- Kashdan, T. B., Disabato, D. J., Goodman, F. R., & McKnight, P. E. (2020). The Five-Dimensional Curiosity Scale Revised (5DCR): Briefer subscales while separating overt and covert social curiosity. *Personality and Individual Differences, 157*, 109836.
- Kashdan, T. B., Gallagher, M. W., Silvia, P. J., Winterstein, B. P., Breen, W. E., Terhar, D., & Steger, M. F. (2009). The curiosity and exploration inventory-II: Development, factor structure, and psychometrics. *Journal of Research in Personality, 43*, 987-998.
- Kashdan, T. B., Stikma, M. C., Disabato, D. J., McKnight, P. E., Bekier, J., Kaji, J., & Lazarus, R. (2018). The five-dimensional curiosity scale: Capturing the bandwidth of curiosity and identifying four unique subgroups of curious people. *Journal of Research in Personality, 73*, 130-149.
- Litman, J. A. (2010). Relationships between measures of I- and D-type curiosity, ambiguity tolerance, and need for closure: An initial test of the wanting-liking model of information-seeking. *Personality and Individual Differences, 48*, 397-402.
- Litman, J. A., Collins, R. P., & Spielberger, C. D. (2005). The nature and measurement of sensory curiosity. *Personality and Individual Differences, 39*, 1123-1133.
- Litman, J. A., & Jimerson, T. L. (2004). The measurement of curiosity as a feeling of deprivation the measurement of curiosity as a feeling of deprivation. *Journal of Personality, 82*, 147-157.

参考文献

- Litman, J. A., & Pezzo, M. V. (2007). Dimensionality of interpersonal curiosity. *Personality and Individual Differences*, 43, 1448-1459.
- Litman, J. A., & Spielberger, C. D. (2003). Measuring epistemic curiosity and its diversive and specific components. *Journal of Personality Assessment*, 80, 75-86.
- Loewenstein, G. (1994). The psychology of curiosity: A review and reinterpretation. *Psychological Bulletin*, 116, 75-98.
- 西川一二(2021). 4章「好奇心—新たな知識や経験を探究する原動力」 小塩真司（編） 非認知能力：概念・測定と教育の可能性 (pp.63-81) 北大路書房
- 西川一二・雨宮俊彦 (2015). 知的好奇心尺度の作成—拡散的好奇心と特殊的好奇心— 教育心理学研究, 63, 412-425
- Nishikawa, K., & Amemiya, T. (2017). Effects of trait curiosities on the appraisals of picture stimuli: diversive curiosity and specific curiosity. *International Journal of Affective Engineering*, 16, 21-25
- Nishikawa, K., & Amemiya, T. (In press). Effect of Two Types of Epistemic Curiosity on Aesthetic Experience. *International Journal of Affective Engineering*.
- 西川一二・雨宮俊彦・楠見孝 (2023). 对人的好奇心尺度の開発——人の感情・秘密・属性に関する好奇心探索—— 心理学研究, 93, 5.
- 西川一二・楠見孝(2021). 好奇心研究に関する再考と好奇心の領域とタイプを観点とした分類方法の提案 日本理論心理学会第67回大会発表予稿集 16
- Renner, B. (2006). Curiosity about people : The development of a social curiosity measure in adults. *Journal of personality assessment*, 87, 305-316.
- Scrivner, C. (2021). The psychology of morbid curiosity: Development and initial validation of the morbid curiosity scale. *Personality and individual differences*, 183, 111139.